

会派視察・研修報告書

会派名 自民クラブ

代表者名 柴田雅也

1 日 に ち	令和元年10月8日（火）
2 視 察 先	岩手県北上市議会
3 参 加 者	山田徹・玉置真一・城處裕二・吉田企貴・柴田雅也・嶋内九一
4 調査のテーマ	通年議会と政策提言への取り組みについて
5 主な内容	<p>議会改革において今後の通年議会導入の是非について研究・議論するにあたって論点を明確にすることと議会機能強化のための政策提言への取り組みについて調査した。</p> <p>(1)通年議会の導入経緯</p> <ul style="list-style-type: none"> ・議会招集権が市長のみであることから議長判断による本会議が開催できなかった。（議会が主体的に動くことができなかった） ・委員会を通年的に活動するため。 <p>(2)会期設定について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度当初（4月10日前後）から～翌年3月20日前後までのほぼ1年。本会の開催は6月・9月・12月・3月 通常会議4回以外に開催が必要な場合臨時会議。 ・会期終了後から次会招集までは必要に応じて臨時会。 <p>(3)導入の効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・議会活動が年間を通して可能になった。 ・市民からの請願・陳情に速やかに対応できるようになった。 ・常任委員会活動が活性化し、これまで以上に調査・研究を行うことで議会側からも政策提言を行うようになった。 ・議会の意思による議会開催が可能になった。 <p>(4)専決事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害及び突発的な事故により応急的に必要となる工事費に係る予算の補正、選挙費の補正など <p>(5)政策提言までのプロセスについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広聴活動⇒市民と議会をつなぐ会、請願・陳情、各会派 ・各常任委員会⇒調査・研究⇒中間報告書配布・意見募集（全議員）⇒提案の素案検討（委員会最終報告書）作成（委員会全会一致前提 ・⇒議長報告⇒全員協議会〔委員長報告⇒質疑⇒討論⇒採決〕全会一致の場合のみ⇒議案化（条例化・条例変更など）が必要か？判断 議案とする場合は発議⇒本会議にて〔委員長報告⇒質疑⇒討論⇒採決〕 ・議案化しない場合は提言書として議長より市長に提出

6 所感、提言事項、
課題等

【議員氏名】山田徹
平成28年に通年議会を開始。通年議会になることによって常任委員会
が会期にとらわれずに年間を通して活動できるようにした。また、議
会モニター制度や、タブレット端末の導入など新しいものをどんど
んと取り入れている。常任委員会は任期2年で、1年目に視察を行い翌年
1年間かけて精査し、任期中に1つ以上の政策提言をすることとしてい
る。私的な意見ではあるが、常任委員会の任期が2年であることはと
ても良いことだと思う。通年議会制になることで常任委員会の活性化
につながり、より多くの市民の声が聴けるようになることはいいこと
だと思うが、議会との対話集会などの回数はもっと増やさなくてはい
けなくなる。任期が2年であれば対話集会での結果を参加者に直接答
えられる機会も増えていくと思われる。紫波町、北上市とも、通年議
会になってからは常任委員会の活動がほぼ倍増しており市民との対話
集会の数もかなり多いのが驚きであった。

【議員氏名】玉置真一
北上市へ通年議会と政策提言への取り組みについて視察を行った。
縦貫道、JR等交通便利がよく古くから栄える、近年東芝メモリー工場
の誘致により一時は人口減少傾向にあったが今後増加が期待されてい
る。
平成24年から議会改革に取り組み、27年12月より導入。
開催期間は4月から翌年3月であるが定例会は年4回とし名称も通常
会議とし、それ以外は議長がその都度招集し臨時会議として開催され
る。
改革後議会活動、委員会活動が活発になった結果か議会改革度調査ラ
ンキング全国1447議会中26位、県内1位、東北では3位、また
昨年まで県内住み良さランキング1位との事であった。
紫波町での通年議会も同様であるが、議長が年間を通して議会を招集
できるので、活発な議会活動ができるとの印象、とても参考になった
が議会運営事務、資料作成等負担増など検討が必要と思われる。

	<p>【議員氏名】城處裕二</p> <p>北上市は、東北の太平洋側と日本海側を結ぶ中間に位置し交通の要地として栄えています。</p> <p>元々主な産業は農業ですがその立地を活かし企業誘致にも取り組み農業と工業のバランスの取れた市を実現しています。北上市へも通年議会導入の経緯と政策提言への取り組みについて視察に伺いました。</p> <p>北上市に於いても、『市民と議会をつなぐ会』『議会モニター制度』等を実施され広く市民の声を集めています。そうした声を元に継続的に調査・研究、引いては政策に繋げるために通年議会に取り組みられたとの事でした。紫波町同様、議会改革の為の通年議会ではなく、議会の目的達成のため常任委員会の活動の活性を実現するためのツールとして通年議会を採用されていました。</p> <p>今後多治見市議会に於いても、通年議会の導入云々の前に何を如何に取り組み達成していくのかを議論する必要性が在ると感じました。</p>
<p>6 所感、提言事項、課題等</p>	<p>【議員氏名】吉田企貴</p> <p>北上市も通年議会を導入しているが、これも必要性に迫られていたことによる。また、年度をまたぐ際に、専決処分を認めないという通年議会の根本的な理念と相いれず、完全な通年性は導入できていなかったという点も示唆的であった。</p>

6 所感、提言事項、
課題等

【議員氏名】柴田雅也

紫波町議会報告書でも述べたが通年議会により議会がどのように変わるのか？議会が二元代表制のもとに執行部と緊張感を持ってまちづくりや住民福祉向上にむけてどのように活動していくのか？議会の命題の中で通年議会にすることの意義を明確にしないと議論は空転する。はじめに通年議会導入の目的は議会の招集権が市長のみで、議会の要請では開けない。通年議会にすることにより、年間通して議会活動ができる。北上市議会では通年議会により定例会を通常会議（6月、9月、12月、3月）および臨時会を臨時会議として年度当初（4月10日頃）に市長が議会を招集して、通常会議や臨時会議は議長が開くことができる。議会が年間を通して一層、主体的に活動することが通年議会を導入した理由は紫波町議会も同じであったが私も同様な認識を持つ。また、通年議会への検討要素に専決の扱いがある。通年にすれば専決が減り、議会で審議できる。本市議会でも通年議会について議論する上で一つのテーマであると思う。北上市議会では専決処分の指定の見直しを行い工事請負契約の500万円以下の変更契約と1件100万円以下の損害賠償額を決定、和解、調定の2項目に加え、災害や突発的な事故により必要となる応急的な維持補修工事に係る予算の補正、国政選挙による選挙費の予算の補正、予算の繰り上げ充用、市営住宅の家賃滞納者に係る和解や調定、一部事務組合の規約の変更の5項目を追加した。

専決処分事項についての議論は重要であると認識した。

請願・陳情には、通年議会では執行部がいなくても議員だけで会議を開き、それらの取り扱いができる。今後、市民などからの請願・陳情についてどのように取り組むのか？認識していかなければいけないと感じた。通年議会導入により、常任委員会が活性化したことによる事務負担は多少増えてきているとのことであった。通年議会導入について議論するならば、議会事務局体制についても検討していく必要があると感じた。

最後に通年議会導入の最大の意義は常任委員会の活発化である。常任委員会が能動的に活動することにより広聴・調査そして政策提言から政策立案へとつながる政策形成サイクルを確立する。本議会としてもここを目的として通年議会について研究・議論することが重要であると認識した。

【議員氏名】嶋内九一

紫波町議会所感と同じく多治見市議会21人の議員が絶えず市民目線を持った議会となるべく、議会改革について研究、議論していかなければならない。通年議会についてもそうであるが本質について理解を深めなければならない。多治見市議会にとって通年議会が必要なのか？現在の多治見市議会の状況は議会機能は活かされていないのか？

その中で市民目線に則った住民福祉向上のために市民との対話が必要と考える。北上市議会が取り組む政策提言の流れについては参考になった。多治見市議会としても対話集会を活用し、どのような広聴活動をし、政策へとつなげていくことができるかについて研究していく必要がある。



7 写真等



※視察先、研修先ごとに1枚作成すること。

※「6 所感、提言事項、課題等」は、参加者全員分を記載すること。